

【妙高市】第2回対人援助スキルアップ研修会を開催しました

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会の対人援助スキルアップ部会では、事例検討を通して専門職のスキルアップについて学びを深めています。

外部への発信の一つとして、R3年11月に妙高市の介護支援専門員を対象とした1回目の研修会を開催し、このたび、部会との連携を図り、第2回目の研修会を開催しました。

○日 時:令和4年1月26日(水)13時30分～15時

○開催方法:ZOOMによるオンライン開催

○参加者:介護支援専門員27名、上越市3名

○講 師:揚石医院 揚石義夫先生
悠久の里居宅介護支援事業所 瀬下善人さん
(講師2名は対人援助スキルアップ部会部会員)



事例紹介

「サービス導入につながらない高齢者二人暮らしの事例」
瀬下ケアマネから事例紹介をしていただきました。

○90代の夫婦二人暮らし。約5年前に息子夫婦のいる上越地域に移り住んできた。

○病気をきっかけに介護認定を受け、アセスメントにより、リハビリや交流の必要性があったが、本人の拒否があり、サービス導入につながらない。

支援経過 (抜粋) 2/5

…続き

息子夫婦「父は半年以上風呂に入らず通院以外は外出もしない。妻でばかりの為、身体がだんだん弱っている。デイサービスを週1でも利用して入浴させたい。利用して運動にも取り組めば、元気になって今の暮らしを続けることができるのではないかと期待している。母は買物にも出かけているが、自宅で一人にはしておけないので一緒に利用させたい。」

面談終盤、息子夫婦が本人たちにデイサービスを利用するよう説得を試み、Aさんも「お父さんについていく」ということで一応納得(?)された為、デイサービスのお試し利用を計画することにした。

Aさん「お父さんが行くなら行ってみようか、帰りが4時頃なら夕飯の支度も間に合うし」
⇨「私は歩いて買物にも行くし何でもできるから、何かしてもらう必要はありません。」
を繰り返す。一応納得はしたようだが…?

Bさん「世話してもらったなら考えてもいいか。」

帰りの際は、Aさんは「いつでも来てください」と駐車場まで出て笑顔で見送ってくださる。支援者が自宅を訪問することに拒否感はなく、むしろ、歓迎している印象を受けた。

グループワーク・発表

5グループに分かれ、自分だったらどのように支援するか意見交換を行いました。その後、2つのグループから発表していただき、全体で共有しました。

《たくさんの意見が出ました》

○二人の強みを確認し、介護サービスだけにこだわらない支援(得意なことをきっかけにしたり、家族との協力で外出支援を行うなど)。

○ケアマネとしてはサービスにつなげることも大事だが、本人たちの気持ちも大事にしたい。

○妻に料理を覚えてもらうという関わり方はどうか。

○80代で生活の場所を変え、やっと安定している。様子を見続けることも支援の一つ。

○入浴支援は優先順位を下げてもいいのでは。

通院前に1回入る、という方法などからでもよい。

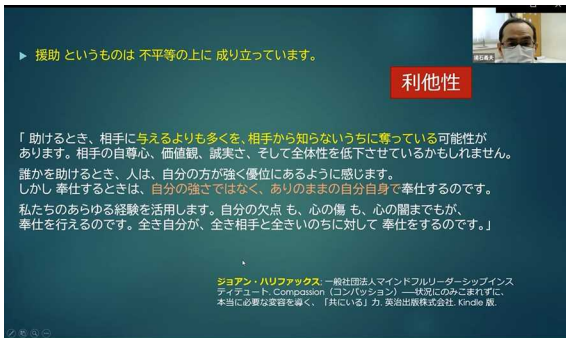
○それぞれの役割を果たしている。まだまだやれる、という気持ち・プライドを持っている。それを大事にする。

○家族の心配を受け止める場所があるとよい。 など



講義

揚石先生から、対人援助職としての心構えについて講義をしていただきました。



- トム・キッドウッドの心理的ニーズにあてはめて課題を整理してみる
- サービス利用を勧められる＝まわりから「あなたは弱い人間だ」「機能が落ちている」と思われていると受け取られやすい
- 関係性を構築した上で、「これからのことを考えませんか」と問いかける
- 援助は不平等の上に成り立っている
相手を助けるとき、与えるよりも多くを相手から知らないうちに奪っている可能性がある
- 先を急がず、過去に頼りすぎない支援をしていこう

アンケート結果とまとめ

- 前回に引き続き、満足度の高い研修となりました。
アンケート回答者全員が日頃の支援を振り返る機会となったと回答しています。
- グループワークやアンケート結果からは、ケアマネが利用者や家族との関係性を大切にする意識を持ちながら日々業務をしていることが再確認できました。
- これまで様々な研修で学びを積み重ねてきたことが、実践につながっていると感じます。
- 定期的な研修の開催を希望する意見もあり、今後も確認し合うことが大切だと思いました。

《業務に活かしていきたいことや感想～アンケートより～》

- ・同じような事例を担当しているので自分のことについて置き換えて考えることができ、とても参考になった。
- ・援助は不平等の上に成り立っているという言葉が印象的だった。
- ・謙虚な気持ちで利用者と向き合っていきたいと思った。
- ・「今」をよりよくするためのサービスを提案していきたい。
- ・目の前の困っていることの支援に捉われすぎず、将来に向けて対応することが大事なことだと思った。
- ・経験を重ねていき、無意識のうちに上から目線での支援になることがあると気づくことができた。
- ・対等に接するよう心掛けています。枠に当てはめてルーチンの中で支援していたと感じた。
- ・心理的ニーズの花びらの図をイメージしながら、日々接していきたいと思った。
- ・心理的ニーズのどこが満たされていないのかをとっかかりにして課題を見出していく方法を改めて復習できた。
- ・「利他性」は心にしみた言葉でした。
- ・今の自分はどうか、と客観的に考えることができ、よい機会となった。
- ・ZOOM研修も回数を重ねることで慣れてきた。
- ・進行役としてZOOMで自由に発言できる雰囲気を持つていくのは難しい。
- ・この研修は来年度もぜひ定期開催をお願いします。